

## ダイビングへのお誘い

北海道支部 No.1042 小屋 秀俊

### はじめに：

「南国暮らしの会」の”南国”といえば、海あるいは海のレジャーが連想される。もちろん南国暮らしの目的は異国の地に来て住んでみて、気持ちをリラックスリフレッシュすることが目的の一つであるわけだが、是非その中にダイビングを加えてみてはいかがだろうか。

ダイビングといっても空を舞うスカイダイビングでも崖から飛び込むダイビングでもない。

スキューバダイビングと呼ばれる海の中を散歩するダイビングのことである。

”南国”にはダイビングのできる場所が少ない。



ハワイ島にて

### ダイビングって何がおもしろいの？：

一言でいえば、ふだんの生活では体験できない未知との遭遇だと思う。カラフルな生き物たちの群れや珊瑚との遭遇、また鳥になったような浮遊感、ふだんの生活で人間の上を生身の人間が交差して通過していることはあり得ない。また海底（地上）まで10m以上もの上空を自由に飛べるのである。

例えて言うならば、4～5階建ての屋上からふわっと飛び出してそのままどこへでも飛んでいけるとでも言ったらピッタリしているかもしれない。高所恐怖症の方は最初は怖いかもしれないが、慣れるとなんでもない。

### 私にもできるの？：

決まって来る質問である。その次は「泳げないけど...」である。大丈夫、私も実は泳げなかったが先にライセンスの方をとってしまった。

沈めればできるのである。おもりを抱いて入るので絶対沈むことができる。その後浮いてこなければいけないのだが、これも自在に大きさを換えられる浮き袋をつけているから絶対浮いてこられる。

後は水中で浮きもせず沈みもせずのバランスを、おもりと浮き袋の調節で取っていれば足ひれだけで前へ進む。

### 危険なことはないの？：

それはないことはない、というより一杯ある、ルールを無視すればである。

沈んでいくときはそれほど危険なことはないが、浮いてくるときが一番危険なのである。

水中で何かあっても上を見上げれば水面が見えるので、急いで水上に出ようとするがそれが危ない。深さにもよるが肺が破裂したり血管の中に気泡が出来たりしてしまうのだ。ダイブの時は、6～8人ぐらいが1グループとなり1～2人のガイドがつく。

ガイドはその地形や潮の流れを知り尽くしているので、彼らの言うことは絶対である。

水の流れは様々に変化する。水平的にはたとえば岸から沖へ流れるものがあるが、それに乗ってしまうと遙か沖まで行ってしまう。

海の流れは川の流れと同じぐらい速いこともあり、水中では「ゴー」という音がして岩に捕まっていなければ飛ばされてしまうことがある。

垂直的に問題があるのは、噴き上がるような流れには問題ないが、下へ引っ張り込まれる流れは危険である。

水中での崖っぷちまで行って、沖を泳ぐ魚を見ることがあるが、不用意に身を乗り出して崖から離れると深遠なる海底に引っ張り込まれることがある。普通我々は15～30mぐらいで遊ぶのだが、がけの下は何百mという真っ暗闇の世界ということもある。



水中5人

あまり脅しても今回の趣旨から離れるので次に行きたい。

### 始めるのにはどうしたら？：

まず潜るのにはライセンスが必要である。様々なランクがあるが、普通は1番下かその次ぐらいで十分である。

スポーツクラブやダイビングショップなどで申し込める。料金は4万円ぐらいで、2～3週間から1ヶ月ぐらいかかるが、沖縄やグアムまで出かけて4～5日でとってしまうこともできる。

ライセンスをとったら後はダイビングのできる町にある「ダイビングショップ」で申し込めばOKである。一人で申し込んだ場合でも何人かのグループを作ってポイントまで連れて行ってくれる。

機材は自分でそろえてもレンタルでもかまわない。自分でそろえるとけっこうな金額になるので、頻繁に行かないのであれば最初の内はレンタルの方がいいかもしれない。

なお始めるに当たってはできれば夫婦で取得するに越したことはない。我々夫婦も同時にライセンスを取得した。なぜならば一人でもってなかなか長続きがしないし、いったん重くなった腰がなかなか上がらないのである。

そのことがロングステイの目的地選びにも影響を与えるからである。

### どこで潜るの？：

基本的にはどこでも潜れるが、やはり珊瑚礁などの綺麗な海で潜りたい。

そもそも珊瑚礁というのはどこにでもあるわけではなく、インド洋から太平洋の、赤道から亜熱帯に集中的に分布する。

従ってアメリカのリゾートのマiami・ケイマン、ヨーロッパの地中海などにはない。

その地域のどこにでもあるかということでもない。地形やプランクトンなどの生き物・海流など様々な要素により楽しめるポイントは限られてくる。

### ロングステイをしながら楽しめるところって？：

そもそもロングステイに適したところというのは、ある程度滞在施設があり、食事や楽しむの機会もあり、人もそれなりに住んでいて、物価が安く、犯罪もなく、云々と皆様それぞれの定義をお持ちであろう。

それに照らして、私の数少ない経験だけで言うのも叱られそうだが私見を言わせてもらう。

国内の南国といえば沖縄だが、本島から船で二時間ぐらい西に慶良間諸島というところがある。ダイバーのほとんどはここを訪れているというほど、国内ダイビングのメッカである。

島々に小さな村が点在しているが、ダイビング以外楽しみもなく、それを考えればまだ石垣島や宮古島の方が町が大きい点で向いている。

海外では、日本から気軽にいけるところではグアム・サイパンがある。ここはポイントにも近く、町の施設も充実しているので向いているかもしれない。あまりロングステイの話は聞かないが、私の知人は人工透析を受けながら滞在していた。何かの時に日本に近いというのも安心なのだろう。

次にダイビングのメッカ、パラオ。ここの海はダイビングに必要な要素はすべてそろっており私の一押しであるが、町は小さく、ホテル以外ロングステイ用の施設はないようなので残念ながら不向きであろう。戦争の激戦地であったが、今はダイビングやシュノーケリング以外で

訪れる人は少ないと思われる。

セブでもダイビングができるが、綺麗な魚を見るためには市内やマクタン島から二時間近くボートに乗らなくてはならない。[ nangoku ] メーリングリストの 28 Feb 2007 「2月のセブ」のなかでNo646 渡辺 徹さんが報告している。南の会の支部もある。

ブーケットでもできる。ボートで一時間ほど南下するが、小魚しかいない。ジンベイザメなど大物を見ることもできるが、ブーケットから数日のクルージングにでなければならぬ。町はにぎやかで、それなりにステイできるかもしれない。ペナンには残念ながらポイントはなし。シュノーケルだけである。南の会の支部もある。

モルジブは島国である。私の一押しの一つだが、ほとんどの島が一島一リゾートホテルの作りになっていて、島一周が10分程度のところもたくさんある。ロングステイは出来ないし、標高4~5mしかないので地球温暖化でそのうち水没する島が続出するだろう。

バリ島でのダイビングは会報'07新年号でNo. 758 白井征勝さんが報告しているが、ポイントまでかなり遠い。リゾート地であり、ステイには向かないと思う。

ハワイだがロングステイには向いているかもしれないが、オアフ島やマウイ島などにはポイントがほとんどない。一方ハワイ島はポイントにも近くロングステイヤーも多いところである。ここはいいかもしれないが午後から天候が悪くなることが多い。今年支部が出来た。



オーストラリア東海岸にはグレートバリアリーフという日本列島と同じぐらいの長さの珊瑚礁が横たわっている。リーフ中間ぐらいのケアンズからボートで1時間ほど沖にでるのであるが、町も大きくロングステイには向いていそう。しかし町の海岸線はひどく汚い

ゴールドコーストはケアンズから南へ2時間ほどのところで、ロングステイヤーが多いところだが、ここにはもうグレートバリアリーフはなく、ダイビングも出来ない。新しく支部ができるそう。

他にも行ってみたいところはいくつかある。ニューカレドニアやタヒチそれに紅海・バハカリフォルニアなどであるが、雑誌で見る限りではロングステイには向いていないようだし、実際ロングステイヤーがいるのも聞いたことがない。

いろいろと書いてきたが、結局はダイビングに主眼を置くかロングステイに主眼を置くかによって場所選びがかわってくるということになる。どちらにも均等ということになれば、国内では石垣島あたり、海外ではグアム・サイパン・セブ・ケアンズ・ハワイ島あたりということになるだろうか。

私はまだ現役で仕事を持っており、今まで1ヶ月間ぐらいのステイ経験しかなく、将来的にはロングステイを夢見ているステイ予備軍である。

我々はというと今のところ、ダイビングのできるところにそう遠くないところにステイ、そこから時々集中的にダイビングに出かけるスタイルを考えている。たとえば、ゴールドコーストにシーズンリーロングステイ、その日本からの行き帰りにケアンズでのダイビング、等である。

かなり決めつけたことを書いたが、ご批判は甘んじて受けよう。私の見識の浅さである。お許しいただきたい。